



TITLE:

北支那の飢饉

AUTHOR(S):

戸田, 海市

CITATION:

戸田, 海市. 北支那の飢饉. 經濟論叢 1920, 11(5): 670-686

ISSUE DATE:

1920-11

URL:

<https://doi.org/10.14989/127719>

RIGHT:

京都市帝國大學經濟學會 經濟論叢

第五號

第十一卷

論 說

歴史と社會學との關係(一)……………法學博士 財部 靜治

地方税としての地租の課税標準……………法學博士 神戸 正雄

限界的生産力の勞賃說……………法學博士 田島 錦治

農業社會主義的土地改良論者……………法學博士 河田 嗣郎

價值論上のリカルドとマルクス(二)……………經濟學士 堀 經夫

時事問題

北支那の飢饉……………法學博士 戸田 海市

雜 錄

濠太利の貿易と海運……………法學士 小島昌太郎

徳川時代に於ける農本の意義……………法學士 本庄榮治郎

將來の産業的指導者としての日本及び其他の諸國……………法學士 石川 興二

京都帝國大學經濟學會第二回講演會記事……………法學士 大森 研造

保險に關する新著紹介……………法學士 小島昌太郎

時事問題

北支那の飢饉

戸田 海市

一 支那の飢饉と防穀令

北支那の飢饉に關する報道は今尙ほ甚だ區々にして不確實たるを免れない、或は二千萬の人口が飢饉に迫れりと云ひ、或は少くとも一千萬の人口が來年の收穫期まで救助を必要とする状態に在つて、之に要する資金は少くとも一億萬元に達すと稱せられ、飢饉の真相を明かにすることか困難であるか、何れにしても今回の飢饉は例年支那の何れかの部分に起る所の普通のものと異つた重大なものであつて、饑餓の慘狀は戰爭中及戰爭後に於て歐洲大陸の一部に起りし饑餓よりも更に甚しいやうである。

支那の人口は頗る稠密であるとは云へ、元來廣大なる平地國であるから可耕地面積が廣く氣候も温暖であるから、其土地を適當に利用するときは莫大の食物原料を生産して平時は多量の輸

出を爲し、一朝不作となつた場合には其輸出が減少して飢饉の發生が自然に防止せらるべき筈である。然るに支那の農業は頗る幼稚であつて、古くより開けたるに係はらず、其耕作が甚だ粗放であつて收穫量が少ない。故に支那は廣大なる可耕面積を擁し乍ら年々少なからざる外米を輸入して穀物の不足を補ふことを要し、又殆んど年々何れかの地方に於て飢饉的狀態の發生を見ざることもなき有様である。

支那の農業が此の如く幼稚不振なる重大原因として防穀令即ち穀物の移輸出禁止制度を擧げることか出来る。其の外國に對する輸出禁止は永久的に固定した制度となつて居るか、此外各省相互の間にも年の豊凶に由て防穀令を行ふて居る。此の内地穀令は本來臨機酌量の例外制度たるべきものであるが、實際には對外國の場合と同じく硬化固定せんとするの傾向がある。各地方の利害を全國の利害の上に置かんとする不統一の支那に於て、國內の防穀令が此傾向を示すことは怪むを要しない。

永續的の防穀令が存在する場合に、農民が勤勉努力して國內又は其地方の需用以上の生産を爲すことは、徒らに穀價を暴落せしめて農民の生存を危ふするの結果となるから、平素の生産を國內需用に應じ得る程度に止める。故に一朝天候不良の爲め凶作となるときは、忽ちに飢饉に陥らざるを得ない。支那の農業も諸外國と同様に食用穀物耕作を本體とするものであるから、防穀令

の存在する爲めに農民が穀物耕作を充分に行はないと云ふことは、即ち支那の農業其物の不振を意味する。又支那の人口の大部分は農民より成るか故に、防穀令の爲め農民が此の如く貧困にして向上發展の精神を有しないことは、即ち支那全體の貧困と沈滞とを意味するものである。國民一般が此の如く貧困なるときは、假令へ凶作の際に外國より廉價に食物を輸入するの途が開けて居ても、國民が之を輸入するの資力を缺くか爲めに飢饉の發生を免るゝを得ない。

未開の農業國に於ては往々政治上の專制の爲めに支那の防穀令と同様の結果を生ずることがある。即ち農民が自己の生存に必要な以上の生産を爲すときは忽ち治者階級の爲めに掠奪せらるゝから、農民は自家の必要以上の生産に努力することに何等の興味を有しない。以前の朝鮮は其の最も著しき例であるか、現今の露國も幾分之に類する有様を呈しつゝある。支那の防穀令は無智無能なる支那の支配者階級が治安を維持する爲めに行ふた姑息策であるか、同時に又支配者階級が人口の大部分を組成する無力の農民を壓迫掠奪するの意味が含まれて居る。即ち都會に住居して穀物消費者の地位に在る政治家、官吏、讀書人、商人、資本家等の支配階級が自己及自己に從屬する都會的下層民の卑近なる消費的利益の爲めに、生産者たる農民の利益を蹂躪することを意味する。他の後進國に於ては官僚が往々商人資本家と相反する思想及利害を有するか、支那に於ては官吏となるのは通例不正不義の手段に由り財産を蓄積することを目的とし、又實際重要官吏と

なるには巨額の運動費を資本家より借入るゝか故に、在職中有ゆる手段に由り財産を蓄積することをするのであるか、大官か此の如くして蓄積したる資本は、恰も匿名組合に對する出資の如き支那特有の方法に由て之を商業に運用することか古くより發達し、従つて支那の資本及商業の上に官吏は重要な地位を占め、之と共に官吏及其候補者たる讀書人の思想は餘程商業と融和した都會的のものである。是れ支那か幼稚なる農業國であるに係はらず、農業及農民の保護に冷淡なる重大原因である。元來防穀令を行ふ理由としては都會に於ける下層民の生活難の緩和と云ふことか高調せられるのであるか、彼等の生活難を緩和するか爲めには直接間接に彼等を使用する所の官吏商人等か彼等に對して公正なる分配を與ふことを適當とする。加之支那の人口の大部分は農民であると同時に、其の最も貧困なる階級も農民である。極貧の農民か田舎に於て生存發展の餘地を見出さゝるか故に都會に出てゝ不安なる苦力勞動者の生活を營むのである。故に若し支那か農民の利益を保護して之に向上發展の機會を得せしむるときは、今日の如く多數の貧民を都會に送り出すの必要もない。農民の生活か最下層の生活であるとするれば、農民の生活を向上せしむることか即ち一般下層民の生活を向上せしむる最大の方法である。尙ほ支那の農業に於ては歐洲諸國に見るか如き大地主制度か跋扈せず、大體は自作農より成立して居るから、永續的防穀令の如き農業の利益を犠牲にする制度を廢止することは、最も重大なる生産政策であると同時に

に、社會政策となるのであるか、一方より云へは支那に於て農業の利益を代表するに付き大地主の如き有力の支配階級が存在せざることか、應て防穀令の如き農民壓迫制度の成立を可能ならしめたのである。貴族的大地主制度の跋扈せる諸國に於ては、支那と正反對に農業生産者の利益の爲め消費者を犠牲に供する政策が行はれ、特に外國より食物を輸入することに對し輸入税其他の種々の制限策が行はれて居ることは、支那が穀物の輸出を禁ずると正反對である。

二 防穀令と天然資源開放の責任

支那が永續的の防穀令を行ふことは穀物生産の進歩を抑へて支那自身の不利を招き、特に支那をして常に飢饉の脅威の下に立たしむるのみならず、支那が穀物を輸出して人類の共同生活に貢獻することを不能ならしむるものであるか、此事たるや彼の白人諸國に於ける異人種排斥問題と同じく國際道徳上の重大問題である故に支那人は防穀令を以て單に自國の利害問題として取扱ふてはならぬ。元來世界の平和を確立して人類の共同生活を進歩せしむる爲めには、各國民が平等の生存權を認めて互に之を尊重することを要件とするか、之を尊重する爲めには單に各國民が互に進んで相侵すことを敢てせざるを以て足れりとしない。本來人類の生存に必要な天然資源の各國の間に於ける分布の状態は甚だ不平均なものであるか、世界的交通經濟の進歩は各國民の間

に或程度の分業を生ずるから、各國に於ける各種天然資源の過不及か益甚しくなる。此の如き狀態の下に在る各國が互に平等の生存權を認めて之を尊重せんとすれば、必らずや天然資源に餘りある國が其の不足せる國に對し之を開放して利用せしむることを要件とする。若しも天然資源の過剩を有する國が之を處理するに付て諸外國又は人類一般に對し何等の責任を感せず、從つて例へは一方に天然資源缺乏の爲め生存の困難となれば國民が存在するに係はらず、其過剩を有する國が之を閉鎖獨占して他國の困窮を傍觀するか如き事實が起つたならば、必らずや天然資源の不足に苦しめる國民は自國の生存權の主張の爲め、其過剩を有する國に對して侵略を行はんとする。是れ暴に代ふるに暴を以てするものであつて、其態度に消極積極の區別はあれども、共に他國の生存權を侵犯する所の帝國主義的行動である。國際聯盟にして世界の平和を確立せんとすれば、軍備制限や國際裁判制度の如き枝葉の手段方法の決定に苦心するよりも、先づ天然資源開放の原則を決定して國際紛擾の發生する原因を除去せねばならぬことは既に屢本誌に論述した所である。一國が其の領有する天然資源の利用を諸外國に對して開放する方法には二種ある。第一は外人をして國內に入り來つて之か利益に與からしむることである。第二は國內の天然資源開發の結果たる原始生産物の自由輸出を認むることである。遠き未來の理想としては第一の方法も充分に行はれて眞の世界的共同生活の發展することゝしても、今日の如く人種的民族的感情の

尙ほ粗野幼稚なる時代に於て、各國民に自主自治的なる國民的團體生活を認めて互に之を尊重せんとすれば、其の人種的感情に對しても充分の注意を拂ふことを必要とする。一國民に對し其の好むと好まざるを問はず、門戸を開放して異人種異民族の來住を迎へ、之と相結合して共同生活を營むへしと要求するは、殆んど個人間に於て婚姻を強制すると同様なる不當の強制である。特に今日は政治的生活に付ては勿論、其他一般の共同生活方面に於ても民衆化が行はれ、即ち民衆が積極的に共同生活の運営に参加しつゝあるか、若しも一般民衆と調和融合し難き異人種異民族が入り來つて社會組織の一部を爲すときは、社會共同生活の民衆化は到底圓滑に進行することを得不い。故に今日の如き民衆化の時代には如何なる人種民族を自己の社會組織に取り込むべきやの問題は、其社會を組織する民衆の意思に由て決定するの外はない。更に此問題を移住者の側より見るも、自己を歓迎する社會に移住して其共同生活の運営に参加し、人間らしき生活を營むことの出来る場合は幸福であるか、人種感情の上より自己を擯斥する社會に押掛けて移住することは、移住者の生存を殆んど無意義ならしむるものである。物質上の利益を得るか爲めには如何なる非人道的待遇にも甘んじて移住すへしと云ふか如き思想は、下層民の覺醒するに従ふて消滅するものである。

目下米國加州に於ける日本移民待遇問題か我輿論を激昂せしめて居るのは、米國民か人種的感

情より自己の好まざる移民の來住を拒絶するの自由を有せんとするを不當なりとするか爲めてはない。吾々は米國民の意思に反して新たに移民を送り出し、日本人を強て米國社會に割込ませんと主張するものにあらざると同時に、我國自身も他國よりの移民に對して禁止制限を行ふの自由を有することを當然と信する者である。只た我輿論が今回の排日運動を以て恕すへからざる暴動侮辱と認める所以は、過去に於て米國民が我移民の來住を認め、富源開發上大に之を利用して經濟發達の利益を得乍ら、今に至つて之を虐待すると云ふことか如何にも非人道的であり、卑怯であり、背信的であるからである。特に日本移民の農業上に於ける既得の權利を奪ふに付き、何等かの賠償方法を設けて居るならば幾分か米人の良心の閃か認められるのであるか、目下の運動は白人か國家の力に由り日本移民の財産を掠奪せんとするものに外ならぬ。故に我輿論か之に對して道德上の侮蔑を含んで居ることは已むを得ない。此排日運動は日本移民か農業上に於て勞働者の境遇より次第に企業者の地位に向上するの大勢に對し、米國の一般有産者か嫉妬し恐怖しての運動であつて、最早や劣等の外來勞働者たる日本移民を排斥せんとする米國勞働者の勞働運動の一種ではない。日本移民を農業企業者たらしめず、何時までも之を農業勞働者の地位に拘束して置き、白人地主をして自由に之を自己の企業に使用するを得せしめんとするの意味か今回の運動に含まれて居る。此排日運動か全く有産者の市民的の排外運動となれると同時に、勞働者か以

前と異つて左まで熱心に之に賛同せざる所以は、必しも日本移民が最早や米國勞働者に對して勞働安賣りの競争を行はぬやうになつた爲めのみではない。米國勞働者は常に有産者の不正不義に對して戦ひつゝあるから、彼等か日本移民に對する有産者の不法の壓迫を意味する此の排日運動に對して、如何にも衷心より之に共鳴し難きか爲めてあらう。

之に由て見れば天然資源の過剰を有する國か其利用を外國に對して開放する方法として、今日直ちに移住の自由を主張することは困難であるから、第二の方法たる原始生産物の輸出の自由を勵行すへきてある。天然資源の餘裕ある國か其生産物の自由輸出を認むることは、自國を利用すると同時に世界を利用するものであり、決して世界の利益の爲めに自國を犠牲とするものではない。

故に又天然資源の餘裕ある國か其輸出を妨ぐる制度を行ふことは、世界一般を害すると同時に自國を傷つくるものである。支那の防穀令の如きは其の最も著しき一例である。元來防穀令は不時の災害に際し國民の生活を安固にする爲めの緊急策としては何れの國に於ても之を必要とする場合の生ずることを免れぬのであるか、之を永續的制度とすることは自殺的な拙策である。朝鮮の如きも防穀令の存在した間は農業が甚だ幼稚であつたか、我國の勸誘に應じて之を廢止して以來其農業が大に發達し、今日は多量の輸出を爲し得るか如くに其生産が増加した。防穀令の存在した時代には朝鮮も支那と同じく屢飢饉の災厄に罹つたか、此姑息策を廢して農業の發達を可能

ならしめて以來は、最早や支那に於けるか如き飢饉の頻發を見ざるに至つた。

支那の思想界に於ては今尙ほ防穀令を是認する傾向が頗る強いやうである。頑冥なる保守主義者が此制度に對し盲目的に大なる價值を認むることは敢て怪むを要しないか、支那の新思想家の間にも此制度は食物を低廉ならしめるから社會政策上大なる價值ありと信する者が少なくないのは甚だ悲しむべきことである。永續的の防穀令は決して食物を低廉豊富にするものでなくて、之と正反對の結果を生ずる姑息策であり、又此制度には都會的資本的勢力が人口の大多數を占むる無智無力の農民を壓迫するの意味も含まれて居つて、社會政策上批難すべきものであることは既に述べし如くであるか、元來防穀令の當否を考へるに方り、單に支那自身の利害のみより之を觀察し、世界人類に對する責任を全く度外視することは、舊式なる帝國主義的思想である。支那の新思想家特に世界主義に對して熱心に共鳴しつゝある支那青年にして、此の如く舊き帝國主義的態度を以て防穀令の問題を觀察する者の少なからざることは、人道の上より見て悲しむべきことである。

三 支那の飢饉と我國の責任

支那の飢饉に對しては我政府も國民も救済の努力を爲すことを要するか、此外に予輩は天然資

源開放の國際的責任に關聯して、此際我國が特種の救濟的努力を爲すの必要に迫られて居ることを發見する者である。前に述べし如く世界の平和を確立するか爲めには何よりも先づ各國が過剰の天然資源の利用をは、其の不足に苦しめる外國に對して寛大に許容することを必要とする。此の天然資源開放共用の原則が今後の國際關係を支配する新道徳の最先條目とならねばならぬ。而して今や支那には少くも一千萬の人口が饑餓に陥れるに反し、我國に於ては政府が當分全く入用とせざる外米の多量を所有して居る。故に我國民にして世界平和の爲め率先して國際新道徳の確立に努力するの決心があるならば、此際過剰外米を支那に提供して其飢饉の救済に充てねばならぬ。

單に飢饉救済の目的の上から見れば、我國より外米を提供する代りに資金を提供しても可い。今回の飢饉地方たる北支那の住民は一體に生活程度が低く、米よりも麥其他の廉價な穀物を多く消費しつつある故、外米を與ふる代りに資金を與ふることか或は一層便利であらう。併し資金を供給して救済を行ふことは隣國としての普通の責任であり、又此種の救済は飢饉救済借款に由り徹底的に之を行ふことを要するか、此外に我國より外米を提供することは國際間に於ける天然資源の融通共用と云へる新國際道徳の確立を促かす爲めに必要とする所である。支那は帝國主義的な舊思想に支配せられて一般輸出品に對し輸出税を課するのみならず、穀物に付ては永續的の防

殺令を行ひ、排日運動に奔走するの徒は天然資源の乏しき日本に對して支那より食物原料の供給を拒むときは久しからずして日本人は餓死すへしとの説を汎く愚民の間に流布し、又我國が米價暴騰を緩和する爲め支那に對し其潤澤なる産米の一小部分を我國に供給することを要求した場合にも、排日思想に捉はれたる一般支那人特に支那青年は米の供給に極力反對し、宜しく日本人を餓死せしむへしと主張した。此の如き行動は激烈なる排日感情の爲めに起つたものであるとは云へ、同時に支那人が其天然資源の處置に付て全く國際的責任を感じないことを示すものである。

併し此責任觀念の缺如は獨り支那人の内に之を發見するのみならず、大體には總ての國民か之を缺いて居る。予輩が本誌に於て屢主張せし如く、今日我國民は自國の存立の爲めにも人類全體の利益の爲めにも率先して新なる國際道德を樹立するの大覺悟を爲し、實踐的に先づ我國自身の力に由り實行し得る所の對支那西比利亞政策を此新原則に由て改善することを必要とするのであるか、不用外米の提供に由り支那の飢饉救濟を行ふことも亦此新原則に由る行動の一つたらしめねはならぬ。

我國が不用の外米を支那に提供することは單に友邦の急を救ふ手段方法の便否の問題でなく、全く天然資源に關する新國際道德を認むるの結果としてである。故に之を提供するに付ては支那も同一の國際道德を承認することを希望せざるを得ない。特に今後我國が食物缺乏の災害に陥り

し際に、支那が幸にして食物の過剰を有するならば、之を我國に供給するの責任あることを承認するを希望する。支那の財政が充實して居るならば、我國が今回支那に提供する外米をは無利息貸付けとし、將來我國が食物缺乏に苦しむ際に、支那が其過剰を有するときは支那をして同種又は異種の等價の穀物を以て返済せしむることとするのが正當の方法であらう。併し支那の財政は近き將來に充實を期待し難き破産的のものである。故に我國より提供する外米に付て支那政府に其れ丈の債務を負擔せしむることは、假令へ無利息としても好ましくない。寧ろ我國は今回之を支那に贈與することとし、以て後日我國に食物缺乏の起りし際に支那が防穀令を解除して我國に對し食物供給の便宜を圖るの責任ありとの感を一般支那人に起さしむることを以て満足すべきである。

我國が外米を支那に提供することは、我國民が充分利用するを得ずして徒らに貯藏する所の貨財をは、支那に貸付けて利益を得ると云ふ財政的行動にあらざるは勿論、單に今回の飢饉救済と云ふ特定目的の爲めのみにする行動でもない。此特定目的の爲めとして見れば、支那は外米よりも資金を要求するてあらう。特に提供外米を貸付けの形式とし、支那をして外債を負擔せしむるの方針を以てするときには、支那が外米よりも資金を要求するの情が強まらざるを得ない。北方支那人は生活程度が低く、特に北方は氣候の關係上米作に適當しない爲め、平素米よりも更に廉價

なる穀類を多く消費して生活しつゝあるから、其飢饉救済の爲めには外米を與ふるよりも同額の資金を與へ之に由て廉價の雜穀を多量に購入して救済に充つることか有效である。加之飢民救済の爲めには單に食糧品のみならず、被服醫藥品建築材料薪炭等も入用である。故に飢饉救済の目的のみより云へば外米よりも資金を交付することを得策とする。吾々は此救済に必要な資金を支那に得せしむる爲めには別に救済借款の應募及民間の寄附行爲に由り努力することを必要とするか、此外特に我國より外米の提供を必要とする所以は國際新道德の承認と實行を意味するからである。此の外米提供の行爲は些々たる財政上の利害や飢饉救済の如き特定の目的を超越し、人類共同生活の根本原則の確立に歩を進めんとするものである。従つて外米提供の方法手續に付ても些々たる利害得失を超越した態度を採り、外米提供の眞意義を發揮せしむることに全力を注かねばならぬ。

目下民間に於ても諸方面に支那の飢饉救済運動が起り、其一部に於ては相當多額の資金を集めて政府所有の不用外米の拂下を受け、之を支那に贈與すへしと云ふ説が起つて居る。併し我國が上述の如く外米提供の眞意義を發揮せんとすれば、其授受を國と國との公けの交渉として行ふことを適當とし、民間の寄附行爲に由て之を行ふときは、其眞意義が大部分没却せらるゝ虞がある。民間の任意なる救済運動としては政府所有の外米を手に入るゝの必要は絶対に存在しない。若し

も民間の救済團體が食物提供に由て救済を行ふことを適當と考へるならば、或は外米を其産地より買入れて支那に輸送し、或は北方支那人の日常食用する米以外の廉價の穀類を多量に購入して之を飢民に供給することを得策とする。特に飢民救済の爲めには救済資金を食料品のみに固定せず、被服醫藥建築材料等の諸般の必要に應じ得るか如く之を流動状態に保つことを必要とする。諸外國人も盛んに救済運動を起して居るか、救済を有効に且つ公平ならしむる爲めには出來得る限り各國人の救済資金を合併して救済を統一的に實行することを要する。此の如き統一の爲めには我民間の救済運動が獨り大量の食物に其資金を固定することは有利でない。

今回の北支那の飢饉は廣大の面積に於ける多數の人口に及んで居るから、之を救済する爲めに外債を起すことは支那の財政状態より見て必要である。元來此の黃河流域地方は人口が稠密であつて而も水害旱魃等の爲め屢飢饉状態を呈する地方である。故に苟くも救済借款を起す以上は今後飢饉の頻發を防止するの效力ある開墾灌漑等の土地利用事業を起し、又此等の事業を可能有利ならしむるに必要な道路鐵道運河等を建設し、飢民をして此等の土木工事に於ける勞働に従事することに由り生計を支へしむることを要する。如何に豊富なる救済資金が存在しても、盲目的慈善を行ふて徒らに惰民を養ふの弊に陥つてはならぬ。此事たる我國より提供する外米を飢民に給與する場合に於ても同様である。支那が此目的の爲めに外債を起さんとするは列國共同の借款

に由るを必要とする。支那に於て南北の分裂鬭争の續く限り政治的借款を起すことは困難であるか、今回の如く飢饉救済の爲めに借款を起すことに付ては、南方も之に反對するを得ない。又假りに南方の反對が起つても、列國は之に順着するを要しない。只た飢饉救済の爲めの借款か他の目的に流用せらるゝの危険を防ぐ爲めに、列國が共同して充分に借款の用途を監督することを要する。而して外國の援助監督の下に大規模の開墾灌溉等の事業を起すときは、其事業を成功せしむる爲めに、今日の如き固定的の防穀令の有害なることが自然に覺られるであらう。

支那に於ける近來の排日運動は實に猛烈であつて、我國が米價暴騰に苦しみたる際にも支那の民論は米の供給を拒絶して日本人を餓死せしむへしと叫び、又我經濟界に重大の損害を加ふる所の日貨排斥の暴動は今尙は全く終熄するに至らない。故に我國民は一般に支那に對して不快の感を有することか明かであるか、而も北支那の飢饉の慘狀が傳へらるゝに及びて、國民は之か救済の爲めに努力せんとしつゝある。是れ勿論飢民に對する同情心の發動に由るものであるか、一は之に由て日支の親交を恢復せんとするか爲めであることも疑を容れない。併し支那の排日思想は年來の我が帝國主義的な大陸政策が支那人をして不安を感せしめ、特に歐洲戦争以來表面裏面に行はれたる種々の對支那策か何れも拙劣極まる帝國主義的のものであるに反し、此世界戦争に由て後進の國民々族の自覺が非常に強まり、支那の如きも今日は最早や以前の如き不公平の待遇

を外國より受けることには絶對に反對せんとするの意氣を生じたからである。故に此際我國民が支那の飢饉救済の爲め如何に多くの努力を爲すとも、單に其れだけで支那の排日思想を衰退せしめることは出来ない。場合に由ては日本の救済運動を以て爲めにする所あるものと認めて、一層支那人の不安と反感とが高まるの結果となるかも知れぬ。故に予輩は我國民が支那の飢民に同情して之か救済に努力することを希望するか之と同時に日支の親交を恢復するか爲め對支那策を根本より刷新することを希望せざるを得ない。此事は是まで繰返して大誌に論述した所であるか、今回我國が飢饉救済の爲めに行ふ所の最も重要手段たる外米提供の如きも、此の刷新せられたる對支那策の一の適用として實行せられたならば、茲に初めて日支の關係を改善するの效果を生ずるであらう。